

誰もが行える貯金「消費税」

所沢市立山口中学校

三年 吉戸 愛乃

私達が日々使用している道路や学校は、税金で成り立っています。私にとって一番身近な税「消費税」について調べてみました。

消費税がどんな事に使われているのか調べてみたところ、最も割合が大きいのは社会保障費というものでした。社会保障とは、医療や年金、介護など私達の生活を守るために欠かせないものです。数年前、消費税が増加しましたが、なぜ増税する必要があるのだろうかと思っていました。だが、社会保障に必要な金銭確保のためで考えました。

少子高齢化に関する問題は長くから言われていますが、今の日本はまさに逆ピラミッドの状態です。年齢の高い人が多くて年齢の低い人が少なく、バランスが悪くなっています。それが、税金の支払いにも影響し高齢者の生活を支える若い人の数は減っているのです。今のままの税の仕組みでは、私達の生活を支える事が難しくなっていると思います。

私の祖母は八十歳になり、先日入院したのですが、後期高齢者制度というもので病院費は、ほぼかからなかったそうです。このような費用も税金という事は、このままでは税金が足りなくなるのではと感じました。

税金は、他にも沢山の人を支えています。東日本大震災が起きた時、祖母は仙台に住んでいました。その時に発生した津波で家が流れてしまったと聞きました。ですが、土地を長期間使用するための税金が必要なくなったり、税金が軽くなったりして家を建て直すお金や、町づくりの再建のためにかかるお金が少なくて、ほんの少し気持ちが悪くなったと言っていました。私は、税金が困った人々の助けになる事を知り、納める事の意味を知りました。

日本は、島国なので地震はこれからも起きる可能性があります。そのような時のためにも、国の貯金である税金をためておく必要があると思いました。私は、消費税が一人ひとりの生活を守る大切な役割を果たしている事を知り、買い物をする度に、誰かの助けになる、困った時の自分のためになるという意識になりました。何かを買った時に、少しの貯金のお手伝いをしていけるような気持ちです。皆も同じ気持ちになれば、将来が困らない状態になると思います。皆さんにもその意識をぜひ持つてもらいたいです。